## 日本史探究(第12回)重要語句説明

	語句	#70bl\ <b>説明</b>	えいやく <b>英訳</b>
ı	開国 かいこく	はこく くに ひら おお ひとびと がいこく 鎖国をやめて、国を開くこと。多くの人々 が外国 と交流 するようになること。	To end isolation and open the country. To encourage more people to interact with foreign countries.
2	通商(=貿易) つうしょう(=ぼうえき)	がいこく たが こうつう しょうぎょう 外国とお互いに交通して商 業 をおこなうこと。   「きうえき   貿易をおこなうための条約 を通商 条約という。	The act of conducting commerce with a foreign country through mutual transportation. Treaties for trade are called "treaties of commerce ".
3	日米和親条約にちべいわしんじょうやく	1854年にアメリカとの間で調印でれた じょうやくしもだいはこだていいこうちを終れる食料・燃料の補給、漂流、民の救済などが定められた。また、アメリカへの最恵国待遇や領事駐在 はんが与えられたが、アメリカが望んだ自由貿易は みと 認めていなかった。 いご後、イギリス・ロシア・オランダとも同様の条約 をおいたが、アメリカーのがである。	A treaty signed with the United States in 1854. It provided for the supply of food and fuel at the open ports of Shimoda and Hakodate, and relief for castaways. It also granted MFN (Most Favored Nation) treatment and consular posting rights to the U.S., but did not allow the free trade that the U.S. desired.

4	日米修好通商条約にちべいしゅうこうつうしょうじょうやく	1858年にアメリカとの間で調印された通商で調印された通商で調印された通商で調印された通商をようやくはこだでかながか、金がさきにいがたいようご(神戸)の開港、江戸・おおさかでの商取引が許可され、貿易がはじまった。また、日本側が領事裁判権を認め、かんぜいじしゅけんを失うなど不平等な条約であった。とうなんであった。とうなんであった。とうなんであった。とうなんであった。とうなんであった。とうなんであった。とうなんであった。とうなんであった。とうなんであった。とうなんであった。とうなんであった。とうなんであった。とうなんであった。とうなんであった。とうなんであんせいでは、アメリカに続いてオランダ・ロシア・イギリス・フランスとも同様の条約を結んだため、それらをまとめて安政の五カ国条約とも呼ばれる。	Trade treaty signed with the U.S. in 1858. It opened the ports of Hakodate, Kanagawa (later Yokohama and Shimoda were closed), Nagasaki, Niigata, and Hyogo (Kobe), permitted commerce in Edo and Osaka, and initiated trade. The treaty was unequal, with the Japanese side granting consular jurisdiction and losing tariff autonomy. In the same year, Japan concluded similar treaties not only with the U.S. but also with the Netherlands, Russia, the U.K., and France, collectively known as the Ansei Five-Party Treaty.
5	関税自主権 かんぜいじしゅけん	じこく かんぜい がいこく ゆにゅう しなもの 自国の関税 (外国から輸入した品物にかけるぜいきん)の税率を、自主的に決めることのできるけんり にほん あんせい ご こくじょうやく 権利。日本は安政の五カ国条約 においてこのけんり うしな めいじいこう じょうやくかいせいこうしょう けっ権利を失い、明治以降の条 約改正交渉の結果、1911年に回復した。	The right of a country to voluntarily determine its own tariff rates (taxes on goods imported from abroad). Japan lost this right under the Ansei Five-Party Treaty, but restored it in 1911 as a result of negotiations for treaty revision since the Meiji era.

6	領事裁判権 りょうじさいばんけん	在留 外国人の裁判をその本国の領事がおこなうことのできる権利。外国人が滞在する国の法とっけんりがいこくじん たいざい くに ほううことのできる権利。外国人が滞在する国の法とっけん 規定からまぬがれることのできる特権 ちがいほうけん (治外法権)のひとつ。安政の五カ国条約 できてい おいじ じだい はい 規定され、明治時代に入った 1899年の条 約かいせい てっぱい 改正で撤廃された。	The right to have a consular officer of the country of origin try the case of a foreigner residing in that country. It is one of the privileges (extraterritorial rights) that allow a foreigner to be exempted from the laws of the country in which he or she resides. This right was stipulated in the Five-Party Treaty of Ansei, and was abolished in the 1899 revision of the treaty at the start of the Meiji Era (1868–1912).
7	尊皇攘夷運動 そんのうじょういうんどう	まう てんのう そんけい してき みかい がいこくじん 王 (天皇)を尊敬し、夷狄 (未開の外国人)を 排斥する(打ち払う)という思想に基づいたうんどう ばくまつき ちょうしゅうはん かきゅうぶし 運動。幕末期に、長 州 藩などの下級武士を ちゅうしん ひろ そんのうじょういうんどう とうばく 中心 として広がった尊皇攘夷運動が、倒幕うんどう はってん めいじいしん みもび 運動へと発展し明治維新を導いた。	A movement based on the ideology of respecting the king (emperor) and rejecting (exterminating) the barbarians (uncivilized foreigners).  The movement to exclude the barbarians spread toward the end of the Edo period, centering on low-ranking samurai from the Choshu clan and other areas, and developed into the movement to overthrow the shogunate, which led to the Meiji Restoration.
8	桜田門外の変さくらだもんが いのへん	1860年に江戸城へ登城中の大老井伊直弼を桜田門外で尊王攘夷派の志士が暗殺したとけん。 けん けんじょう かんきつ としょう ちゅう たいろういい なおますけ を桜田門外で尊王攘夷派の志士が暗殺したとけん けん せんせいせいじ はんだい せいりょく としょだん 事件。井伊の専制政治に反対する勢力を処断した安政の大獄への反発から起きた事件であったが、大老を暗殺された幕府の権威は失墜した。	In 1860, Ii Naosuke was assassinated near Sakuradamon Gate on his way to Edo Castle by a group of pro-exclusionist warriors. Ii Naosuke's assassination was a reaction to the Great Prison of Ansei, which punished those who opposed Ii's tyranny. The assassination brought down the authority of the shogunate.

9	大政奉還たいせいほうかん	15代将軍 徳川慶喜が朝廷 へ政権を返上したこと。薩摩藩・長 州 藩を中心 とした倒幕の動きに対して、幕府に政権を返上させることによって政局 の主導権を取らせようとした土佐は、 げいしゅうはん ましのぶ ていあん ましのぶ でしまってい 大い ため とこと はん げいしゅうはん ましのぶ にち ちょうてい せいけんへん た 慶喜が 1867年10月14日、朝廷 に政権返しよう もう で上を申し出た。	The 15th shogun, Yoshinobu Tokugawa, returned political power to the Imperial Court. In response to the overthrow of the shogunate movement led by the Satsuma and Choshu clans, the Tosa and Geishu clans, which wanted to return power and have the shogunate take control of politics, proposed that Yoshinobu do so. Yoshinobu accepted their proposal, and on October 14, 1867, he offered to return power to the Imperial Court.
10	王政復古の大号令 おうせいふっこのだいごうれい	1867年12月、岩倉具視を中心とした薩摩藩・ ちょうしゅうはんぶりょくとうばくは じっこう せいへん 長州藩ら武力 倒幕派が実行した政変。 せっしょう かんぱく はいし えど ばくぶ はいぜつ しょだい 摂政・関白の廃止や江戸幕府の廃絶、初代 じんむてんのう じだい ふっき せんげん でんのうちゅうしん せいじ たいせいじゅりつ めざ 天皇中心の政治体制樹立が目指された。	In December 1867, the Satsuma and Choshu clans, led by Iwakura Tomomi, overthrew the shogunate by force. The abolition of the regent and Kanpaku, the abolition of the Edo shogunate, and a return to the era of the first Emperor Jinmu were declared, with the aim of establishing an emperor-centered political system.
11	戊辰戦争 ぼしんせんそう	1868年に起きた鳥羽・伏見の戦 いから翌年の ごりょうかく たたか いまでの新政府と旧 幕府勢力と 五稜郭の戦 いまでの新政府と旧 幕府勢力と の間 の戦争。新政府軍(官軍)による江戸城 かいじょう おううえつ れっぱんどうめい たたか 開城 や奥羽越列藩 同盟との戦 いを経て、 ごりょうかく たたか きゅうばくふ ぐん こうふく 五稜郭の戦 いで旧 幕府軍が降伏した。	The war between the new government and the old shogunate forces from the Battle of Toba—Fushimi in 1868 to the Battle of Goryokaku the following year. After the opening of Edo Castle by the new government forces (government troops) and the battle against the Ouetsu Row Clan Alliance, the old shogunate forces surrendered at the Battle of Goryokaku.

五箇条の誓文 ごかじょうのせいもん	おいじてんのう かみがみ ちか けいしき はっぷ 明治天皇 が神々 に誓うという形式 で発布され、ないよう こうぎょろん こうぎょろん その内容 は公議世論(公議世論とは公家やだいみょう かいぎ いけん そんちょう かいこくわしん 大名 の会議・意見)の尊重 と開国和親のほうしん じゅうてん お しょがいこく 方針に重点 が置かれ、諸外国 からの支持を得かんが	The basic policy of the new government issued in March 1868. It was issued in the form of an oath to the gods by Emperor Meiji, and its content focused on respect for public opinion (public opinion is the meeting and opinions of the nobles and feudal lords) and the policy of opening the country to the outside world in an attempt to gain support from other countries.
----------------------	---	--